

第3学年1組 社会科学学習指導案

授業日 平成28年7月12日(火) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 八幡 昌樹

会場 3年1組教室

1 単元名 IN MY CITY ～わたしたちの市の様子～

2 本単元の価値

本単元は、多くの市民が集まる新潟市中心部にある外国語の表記について、観察、調査することを通して、外国とのかかわりを視点に、新潟市の取組の意味を考えることを目指したものである。

取り上げるのは、新潟市サインマニュアルという取組である。これは、新潟市が「わかりやすい街づくり、美しい街づくり」のために、外国人だけでなく誰にとっても分かりやすい表記を目指して、市内を一人で歩いて回れることを可能にする案内情報の提供、誘導のための環境を整備するという内容である。例えば、新潟市観光循環バスは、英語、ロシア語、中国語、ハングル語、日本語の5カ国語がバス停に表記されている。観光案内地図も同様で、訪れた外国人観光客にとって目的地が分かるように5カ国語が表記されている。これらの他にも、路線バスのバス停における地名表記や公共施設の名前の表記など様々ある。このサインマニュアルは、サッカーワールドカップや国際会議の開催によって増加した外国人観光客への対応として始まり、現在では、ユニバーサルデザインの視点も加わって、日本人にとっても地名が分かるようになることも目的としている。子どもは、外国語の表記があることで一見外国人のための取組ととらえがちになる。しかし、外国人のためだけでなく、誰にとっても分かりやすい表記を目指しているところに取り上げる内容としての価値がある。

単元構成として、第3学年社会科「わたしたちの市の様子」の終末における活用場面と位置付け、道徳、国語科、国際理解教育における資質・能力を教科横断的・総合的に育んでいく新たな単元の設定を構想した。

はじめに道徳の学習で外国とのかかわりを考えるきっかけをつくる。第3学年においては、自分の国の伝統と文化、また外国の文化にも関心をもつことが大切とされている。しかし、子どもは身近にある外国とのかかわりについてそれほど自覚していない。資料を通して自分と同じ年頃の日本人と外国人の交流から外国とのかかわりを考えることで、文化の違いを考え、意識するようになる。

その後、社会科「わたしたちの市の様子」の活用場面として、外国語の表記が外国人のためだけでなく、様々な立場の人の役に立っていることを考えさせる。3年生は社会科学学習の入門期である。課題解決の方法として子どもが考える選択肢は少ない。そこで、国語科のインタビューの学習と関連させ、身に付けた「質問したり感想を述べたりする」「話のまとまりに気をつけて、話の要点をメモに取りながら聞き取る」(資質・能力 国①)、「相手の意図をとらえつつ、自分の考えと比べながら聞く」(資質・能力 国③)を課題解決の場面で発揮させる。学習問題に対する予想という自分の考えと比較しながら、質問したり感想を述べたりすることで、社会科の調査活動において国語科の資質・能力を発揮して課題解決につなげることができる。

このときに、外国人(新潟県国際交流員)や新潟市まちづくり推進課の方と出会わせて、インタビューさせる。国際交流員の方は、新潟市で生活していて外国語の表記があることの効果を感じている。また、新潟市まちづくり推進課の方も招く。こちらは取組の主体として、サインマニュアルを所管している部署である。この両者にインタビューすることを通して、取り組んでいる側とその効果を感じている側の両者の立場から、新潟市の取組の意味を考えさせる。

ここで出会った国際交流員の方とのつながりをインタビューに止めず、さらに、交流する機会を設定する。自国の文化について話してもらったり、その国に昔から伝わる遊びを一緒にしたりする。子どもは、外国の文化に触れ、興味をもつようになる。

このようにして、社会科を中心に様々な資質・能力を発揮させ、育んでいくことができるところにも本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿

新潟市中心部にある外国語の表記を調査し、外国とのかかわりを視点に新潟市の取組の意味を考える子ども

新潟市中心部にある外国語の表記についてインタビュー調査をすることで、「新潟市は、外国語が書かれた地図や案内を作って、外国の人にとってどこへ行けばいいか分かりやすくしたり、どの人にとっても場所の名前が分かるようにしたりしている。新潟市が外国語で書かれたものを作ることは、外国の人のためだけでなく、いろいろな人の役に立つ」などと考える姿。

4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全10時間(300)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに社会科の学習において、新潟市は広い平地・低地に店や住宅を囲むように田や畑が広がっていると地形的な特徴をとらえている。また、新潟市中心部（万代地区と新潟駅周辺）を調査して、交通の結節点で訪れる人の目的を達成するために必要な施設がそろっているから多くの人が集まると社会的な特徴もとらえている。

他教科の学習に関しては、課題解決の段階において調査が必要になるのに合わせて、国語科で本などでは分からないことを知りたいときにインタビューをして解決できると考えている。道徳の学習を通して、外国との文化の違いを考え、意識するようになっていく。

そして、本単元においてこれまでの調査では考えていなかった新潟市中心部にある外国語の表記が外国人のためのものだと考え、実際に観察に行き様々な種類の外国語の表記を見つけてきている。そして、外国の人が外国語の表記があることを便利だと考え、その効果を感じていることをインタビューを通してとらえ、それは新潟市（市役所の人）が作ったものだと考えている（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

動画資料（音声案内付地図）を提示し、疑問に思うことを問う。

既有事項とずれを感じさせ、新潟市サインマニュアルの取組の目的について、子どもに問いをもたせる働き掛けである。

まず、前時までの学習を振り返らせるために、これまでの学習で見つけた外国語の表記（道案内、タバコのポイ捨て禁止、音声案内付地図）の写真を提示する。子どもは写真を見て、それらが何かをすぐに言い当てる。そして、どうしてこういうものが流れるのかと問う。これまでの学習を想起している子どもは、新潟市が外国人の人のために作ったからと考える。そこで、提示した写真の中から音声案内付き地図を取り上げ、それを動画で提示し、疑問に思うことを問う。この動画には、万代一丁目の地図から周辺施設への案内が日本語で流れる。それを聞くとき外国の人のための地図だと考えていた子どもは「なぜ日本語が流れるのだろうか」「外国人の人のための地図ではないのか」と疑問に思う。それを表出させ、新潟市の取組の目的に疑問を焦点化し、「外国語が書いてあるのに、なんのために日本語の音声が付いているのか」という学習問題を設定する。

働き掛け2

学習問題に対する予想と解決するための方法を問い、調べたい内容を班で話し合わせる。

設定した学習問題を解決するための見通しをもたせる働き掛けである。

学習問題を設定した子どもに、この時点での予想を問う。このときの予想が課題を解決するための視点になるからである。子どもは、これまでに現地を観察、調査した経験を想起し、「漢字は読めないけれど聞けば日本語が分かる外国人の人もいるから」「外国人の人だけでなく初めて来た人にも分かりやすくするため」「目が見えない人にも行きたい場所を分かってもらうため」と考える（社会①③）。この予想を取組の効果を感じる人の立場で分類して板書する。

次に学習問題を解決するための学習の進め方を問う。子どもはこれまでの学習から、分からないことがあったら観察したり、調査したりするとよいと考えているため、自分たちの予想から外国語の表記を作った人と考えている新潟市役所の人にインタビューして聞けば解決できると考える。

インタビューしたいと考えた子どもに、何を聞きたいのかと問い、班ごとに話し合わせる。子どもは予想を基にして、「なぜ外国語だけでなく、日本語の音声も付けたのか」「いつから外国語で書かれたものを作っているのか」「誰のために作っているのか」などとインタビューして聞きたい内容を考える。班では3つの質問を聞きたい順に決めさせる。また、これまでの学習を通して疑問に思っていることを聞くことも許容する。

働き掛け3

市役所（まちづくり推進課）の方にインタビューさせる。

取組の目的に関する情報を収集させるための働き掛けである。

新潟市で外国語の表記を作った人にインタビュー調査をしたいと考えた子どもに、その方を呼んでいると伝え、市役所（まちづくり推進課）の方を招く。インタビューに必要なものがあるかと問う。子どもによって、インタビューメモを使おうとする。そして、班の代表一人にインタビューをさせる。子どもは班で話し合った聞きたい内容について、市役所（まちづくり推進課）の方にインタビューをする。そのとき「質問したり感想を述べたりする」「話のまとまりに気をつけて、要点をメモする」（国語①）「相手の意図をとらえつつ、自分の考えと比べながら聞く」（国語③）を發揮し、「誰にとっても分かりやすいことを目指している」「外国人のためだけではない」などといった情報を収集する。そして、新潟市は誰にとっても分かりやすくするために外国語が書かれた地図や案内を作ったととらえる（社会①③）。

働き掛け4

漢字だけでは読むことが難しい地名のバス停の写真を提示し、考えたことを問う。

取組の効果を考えさせるための働き掛けである。

誰にとっても分かりやすくするという目的をとらえた子どもに、誰にとっても誰に含まれている立場を問い、改めて働き掛け1で使用した写真を提示する。子どもはこれまでの学習から、外国の人や観光客などが含まれると考える。国際交流員の方が便利で暮らしやすいと話していたことを想起するが、自分も含まれているとは意識していない。そこで、漢字だけでは読むことが難しい地名のバス停の写真を提示する。すると、漢字だけでは読むことができないけれど、**外国語の表記があるとローマ字が読めるから自分たちにも分かる**と、**自分の生活と関連付けて取組の効果に気付く(社会①③)**。そのときに考えたことを問う。子どもは、誰にとってもというのは、自分たちも含まれているという考えを表出する。

働き掛け5

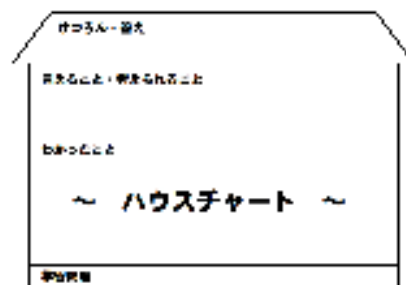
班ごとにハウスチャートを提示し、事実と解釈、学習問題の結論、それに対する自分の考えを問う。

収集した情報をまとめさせ、設定した学習問題の結論を導くための働き掛けである。

ここまでに分かったことをどうまとめるかと問う。子どもは、これまでに課題解決してきた経験を想起して、**ハウスチャート(自作)にまとめれば結論を出せると考える(社会②)**。ハウスチャートとは、学習問題、分かった事実、考えた解釈、学習問題に対する結論を下から上へ順にまとめていく思考ツールである。子どもの反応を受けて、班ごとにハウスチャートを提示する。そして、これまでの学習で分かった事実は何かと問う。

子どもは、**外国の人と市役所の方から聞いて分かったことを書いた付箋紙をチャートに貼る(社会②)**。そして、分かった事実から解釈できることを問う。すると子どもは**チャートに貼られた付箋紙を基にして事実を関連付けて**、**「外国語の表記は役に立つ」「誰にとっても分かりやすくして便利」と考える(社会②③)**。

最後に、一人一人に学習問題に対する結論、それに対する自分の考えを問う。子どもは、新潟市中心部の外国語の表記についてインタビュー調査をすることで、「新潟市は、外国語が書かれた地図や案内を作って、外国の人にとってどこへ行けばいいか分かりやすくしたり、どの人にとっても場所の名前が分かるようにしたりしている。新潟市が外国語で書かれたものを作ることは、外国の人のためだけでなく、いろいろな人の役に立つ」などと**集めた情報を総合して考える(社会③④)**。これが、**新潟市中心部にある外国語の表記を調査し、外国とのかかわりを視点に新潟市の取組の意味を考える子ども(Cn)**の姿である。



7 本時の構想 (本時 7/11時間)

(1) ねらい

新潟市サインマニュアルの取組について、新潟市まちづくり推進課の方へのインタビュー調査を通して、工夫や努力に気付き、収集した情報をハウスチャート(思考ツール)にまとめることができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 新潟市は広い平地・低地に店や住宅を囲むように田や畑が広がっていると地形的な特徴をとらえている。
- 新潟市中心部は、交通の結節点であり、訪れる人の目的を達成するために必要な施設がそろっているところだから、多くの人が集まると社会的な特徴もとらえている。
- 国語科で本などでは分からないことを知りたいときにインタビューをして解決できると考えている。
- 道徳の学習を通して、外国との文化の違いを考え、意識するようになっている。
- 新潟駅と万代地区にある外国語の表記が外国人のためにあると考え、実際に観察・調査に行き、様々な種類の外国語の表記を見つけてきている。
- 外国の人が外国語の表記があることを便利だと考え、その効果を感じていることをインタビューを通してとらえ、それは新潟市(市役所の人)が作ったものだと考えている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- これまでの学習で見付けた外国語の表記(道案内、タバコのポイ捨て禁止、音声案内付地図)の写真を提示する。
 - ・説明「これまでに見付けた写真です」
 - ・発問「これは何が写っていますか」
 - ※ 道案内、タバコのポイ捨て禁止、音声案内付き地図の3つを順に提示する。
 - ・発問「どうしてこういうものがあるのですか」
 - ※補助発問「誰が誰のために外国語を付けたと考えていますか」

- 音声案内付き地図に関する疑問を問う。
 - ・指示「この地図について、これを見てください」
 - ・発問「この動画を見て、疑問に思うことはありますか。ノートに書きましょう」
 - ※ 疑問に思うことをノートに記述させる。
 - ・指示「疑問に思ったことを発表しましょう」
 - ※補助発問「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」
 - 「〇〇さんの言いたいことを詳しく言えますか」
 - ※ 新潟市の取組の目的に関する疑問に焦点付ける。
 - ・発問「それでは、今日、学習問題は『外国語が書いてあるのに、なんのために日本語の音声が付いているのか』でいいですか」
 - ※ 設定した学習問題に同意できるかを確認して次へ進む。
 - ※ 学習問題をノートに記述させる。

このようになり (G1)

- 新潟市中心部（新潟駅と万代地区）の写真を見て気付いたことを発表する。
 - ・道案内の看板だ。
 - ・地面にあったタバコのポイ捨て禁止を教えているマークだ。
 - ・万代地区を案内する地図だ。
 - ・外国の人にとって便利だからだ。
 - ・新潟市役所の人々が外国の人のために外国語を付けた。
- 新潟市サインマニュアルの取組の目的に関する学習問題を設定する。
 - ・外国の人のための地図のはずだ。
 - ・なぜ日本語が流れるのだろう。
 - ・外国の人のための地図だ。それなのに日本語の言葉しか流れない。
 - ・外国の人に便利な地図なのに、日本語が流れるのはなぜ。
- ◎ 外国語が書いてあるのに、なんのために日本語の音声が付いているのか（学習問題）
 - ※ _____ のように外国人のためという前提で、_____ のように日本語が流れることに疑問を抱いている記述をノートにしていたら、問いをもった姿とみなす。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 学習問題に対する予想を問う。
 - ・指示「学習問題に対して予想をしてみましょう。予想をノートに書きます」
 - ※ 学習問題に対する予想をノートに記述させる。
 - ・発問「どんな予想をしましたか」
 - ※ 予想を取組の効果を感じる人の立場で分類して板書する。
 - ※ 自分がどう予想したのか、挙手をさせて確認する。
- 学習問題を解決するための学習の進め方を問う。
 - ・発問「この学習問題を解決するために、これからどうやって学習を進めていきますか」
 - ※補助発問「知りたいことが分かるためには、どんな情報が必要ですか」
- インタビューして聞きたい内容を班で話し合わせる。
 - ・説明「外国語で書かれたものを作った人と考えている新潟市役所の人にインタビューして聞いてみたいと考えているのですね」
 - ・発問「それでは新潟市役所の人にどんなことを聞きたいですか。班で話し合って3つに決めます。聞きたい順に順番を付けておきます」
 - ※ 班ごとに聞きたい内容を相談させ、聞きたいものを3つ選ばせておく。
 - ※ また、これまでの学習を通して疑問に思っていることを聞くことも許容する。

このようになり (G2)

- 学習問題に対して予想を立てる。
 - ・漢字は読めないけれど聞けば日本語が分かる外国の人もあるから。
 - ・外国の人だけでなく初めて来た人にも分かりやすくするため。
 - ・目が見えない人にも行きたい場所を分かってもらうため。
- 学習問題を解決するための方法を考える。
 - ・外国語の表記を作った人にどうして作ったのかインタビューすればいい。
 - ・新潟市役所の人に話を聞けばいい。
- インタビューして聞きたいことを話し合う。
 - ・外国語が書かれているのに、なぜ日本語の言葉が流れるのですか。
 - ・いつから外国語で書かれたものをたくさん作ったのか。
 - ・外国人のために外国語を付けているのですか。
 - ・なぜ英語だけでなく、いろいろな国の言葉を付けているのですか。
- ※ _____ のように、市役所の方に、_____ のように、聞く、インタビューすることで解決でき

ると考えた姿を通過とみなす。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 市役所の方にインタビューさせる。
 - ・説明「それでは、外国語の表記を考えた新潟市で働く人にインタビューしたいということなので、今日は新潟市まちづくり推進課の方をお招きしました。それではお呼びします」
 - ※ 新潟市まちづくり推進課の方を紹介し、簡単に自己紹介をしてもらう。
 - ・発問「インタビューするときに必要なものはありますか」
 - ※ インタビューメモを必要に応じて使わせる。
 - ・指示「班で質問することが一つ決まっていますね。それでは、代表の人はインタビューしましょう」
 - ※ ここでは、子どもがインタビューしたことに答えてもらうだけで、それに関すること以外には答えてもらわない。
 - ※ 分かったことを書く付箋紙（赤）を配付し、記入させておく。

このようになり (C3)

- 新潟市まちづくり推進課の方にインタビューして、外国語の表記について調査する。
 - ・本当に来てくれたんだ。うれしいな。
 - ・なぜ外国語でなく日本語の言葉が流れるのですか。
 - ・はい。外国の人のために外国語を付けています。それだけでなく、誰にとっても分かりやすくするためでもあります。
 - ・なぜ、外国語で書かれたものをたくさん作ったのですか。
 - ・外国の人だけでなく、誰にとっても分かりやすくして、どこにも行きやすいようにいろいろな場所に作ってあります。
- ※ 新潟市まちづくり推進課の方に外国語の表記に関するインタビューをして、.....のように、取組の目的に関する内容をメモに取る姿が見られたら、資質・能力 国①③を発揮したとみなす。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 漢字だけでは読むことが難しい地名のバス停の写真を提示し、考えたことを問う。
 - ・発問「誰にとっても分かりやすくするためだということでしたね。それでは、誰にとっても誰とはどんな人がいるのですか」
 - ・発問「この写真は誰にとって分かりやすいですか」
 - ※ 外国語の表記を観察したときに撮影した写真を提示する。
 - ・発問「それでは、この写真を見てください。この写真からどんなことが分かりますか」
 - ※ 補助発問「それが分かった理由がありますか」
 - ※ 「鑑（あぶみ）」という地名のバス停の写真を提示する。
 - ・発問「写真を見たことからどんなことを考えましたか」
 - ※ 補助発問「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」
 - ※ 補助発問「〇〇さんの言いたいことを詳しく言えますか」

このようになり (C4)

- 新潟市の取組の効果、自分とのかかわりを考える。
 - ・新潟市に住んでいる外国の人。
 - ・国際交流員の方も外国語があると便利で暮らしやすいと話していた。
 - ・地図があるといいのは、新潟市に来た観光客の人だろう。
 - ・市外や県外から来た人たちだ。
 - ・鑑とはなんて読むのだろう。
 - ・ローマ字で読むと「あぶみ」だ。
 - ・外国語があると読めない漢字が分かる。
 - ・誰にとってもというのは、自分たちも含まれている。
- ※ 新潟市の取組の効果、自分とのかかわりを考え、.....のように、取組の目的である誰にとってもの中に自分が含まれていることに気付いている姿が見られたら通過とする。

このように働き掛けると【働き掛け5-①】

- 班ごとにハウスチャートを提示する。
 - ・発問「それでは、いろいろなことが分かりましたね。分かったことをどうやってまとめますか」
 - ・説明「ハウスチャートにまとめるということなので配ります」
 - ※ インタビューして分かったことを書いた付箋紙を用意させておく。

- ※ ハウスチャートを班に1枚ずつ配付する。
- ・指示「みんなで設定した学習問題を一番下にも書きましょう」
- ・発問「分かった事実はどんなことですか」
- ・説明「どこにどのように貼るのかは自分たちで考えます」
 - ※ 調査して分かった事実を下から2段目に記述させる。
 - ※ 机間巡視し、必要に応じて書き方を説明する。
 - ※ 作業が早く進んだ班は、先へ進むことを許容する。
- ・発問「分かったことから考えられること、言えることは何ですか」
 - ※ 事実から考えられる解釈を上から2段目に記述させる。
 - ※ 机間巡視し、必要に応じて書き方を説明する。

このようになる (C5-①)

- 調査した後の学習のまとめ方を考える。
 - ・分かったことはハウスチャートにまとめればよい。
 - ・これまでも調べて分かったことをハウスチャートにまとめてきたから使うといい。
- ハウスチャートにこれまでに分かったこと、考えたことをまとめる。
 - ・学習問題は「外国の人はほとんどいないのに、なぜ外国語で書かれたものがたくさんあるのだろうか」だった。

【A班】

- (事) いろいろな場所に外国語があって、外国の人は便利だと思っている。
- (事) 新潟市の人は外国人のためだけでなく、新潟市に来た人みんなに分かりやすいようにすることを考えている。
- (解) 外国の人も日本人もみんなのことを考えていて、それを便利だと思っている。

【B班】

- (事) バス停に外国語があると、外国の人は今どこにいるのかが分かる。子どもにも分かる。
- (事) バス停を使って行きたいところに行けるように、外国語を付けている。
- (解) 外国の人でも子どもでも新潟市の行きたいところに行けるようにしている。
- ※ ハウスチャートにまとめればよいと考え、これまでに分かった事実を書いた付箋紙を貼り、その付箋紙を整理して解釈をまとめ、事実、解釈を線でつなぐなどして関連付けている姿が見られたら通過とみなす。

----- 本時C5-①の途中まで -----

このように働き掛けると【働き掛け5-②】

- 学習問題の結論、それに対する自分の考えを問う。
 - ・指示「学習問題の結論はどうなりますか。結論に対して、どのようなことを考えましたか。最後は一人一人がノートに書きます」
 - ※ ノートへの書き方を説明し、結論を記述させる。

このようになる (Cn)

- 学習問題に対する結論、それに対する自分の考えをまとめる。
 - ・新潟市は、外国語が書かれた地図や案内を作って、外国の人にとってどこへ行けばいいか分かりやすくしたり、どの人にとっても場所の名前が分かるようにしたりしている。新潟市が外国語で書かれたものを作ることは、外国の人のためだけでなく、いろいろな人の役に立つ。
- ※ のように、新潟市の取組の目的と効果を関連付け、集めた情報を総合してまとめて、新潟市の取組の意味を考えている記述があれば表れありとする。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5-②において、のように、学習問題の結論として新潟市の取組の目的と効果を関連付け、集めた情報を総合してまとめて、新潟市の取組の意味を考えることができたかを、ノートへの記述から検証する。
- ② 働き掛け3において、のように、学習問題を解決するために外国語の表記に関するインタビューをして、新潟市の取組の目的をメモに取ることができたかを、付箋紙への記述から検証する。
- ③ 振り返りの記述内容から検証する。